

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4292400035
法人名	医療法人 NANOグループ
事業所名	グループホーム なずな
所在地	〒854 - 0407長崎県雲仙市千々石町庚1297番地1 (電話)0957 - 74 - 5125

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】(H19年 11月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	1月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9人	常勤	8人,	非常勤 1人, 常勤換算 8.2人

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000~21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800円

### (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	0名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 83.8歳	最低	78歳	最高	99歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	菜の花クリニック・木戸医院
---------	---------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は、自然が沢山で緑に囲まれている。管理者始め、職員は地域に開かれたグループホームを目指しており入居者の方が、どの様にしたら楽しめるのが行事等の計画を立て、地域の参加を呼びかけている。七夕・夏祭り・敬老会・誕生会と一年を通し四季を感じながら一緒に楽しみ、敬老会での食事では、「長生き弁当」と名付け、職員のアイデアが大変活かされている。又、入居者一人ひとりを大変尊重されており、昔の職業を活かし、少しずつ一緒に思い出しながら、作品作りに取り組まれている。開設されて一年とは思えない程、入居者は穏やかでホーム内で過ごされる姿がごく自然で印象的であった。又、医療法人の運営で主治医の週1回の往診に付け加え更に、同じ法人内の訪問看護ステーションから週1回、看護師の訪問がある。日中だけでなく、夜間帯の連携体制も整っており、本人・家族が医療面でも安心して過ごす事が出来る。管理者・職員は、何事に対しても大変前向きな姿勢で、外部評価の機会をケアの振り返りとし、今後に役立てて行きたいと職員は一丸となっている。今後の取り組みが大変期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価であり、今後が期待される。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員一人ひとりが自己評価の全項目に対し、考え書き記し総合的結果を管理者がまとめられた。外部評価を今のホームの課題について考えるチャンスだと、サービスの質の向上の為、大変前向きな姿勢が窺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>グループホームの役割・理解を求める為、運営規程や重要事項説明書等を基に、現時点のホームの状況報告が行われた。これまでの活動報告と年間活動計画(避難訓練など)が説明され、メンバーからも質問等があり、グループホームが地域密着型サービスの位置づけとなり、今後、外部からの貴重な意見・要望を聞く重要な機会であり意見交換会の様に運営推進会議を進めて行きたいと願っている。活発な意見交換が今後の運営に活かされて行く様前向きな姿勢が窺える。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情窓口をホームだけでなく、直接言い難い場合を考慮して、行政機関にも相談等出来る様に重要事項説明書に記載し、入居契約時、本人・家族に説明をされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者が地域の方々と出来るだけ多く触れ合う事が出来る様にと、一年を通し四季を感じながらホームでの色々な行事を企画された。夏祭りには家族・近所の方・地域の子供達を招待し、金魚すくい・スイカ割り・ヨーヨーつり等をして工夫され、沢山の方の参加があった。敬老会では、地域の子供達が歌や踊り(浮立)の参加もあり、日頃から地域の方との関わりを願い、今後は地域の行事に積極的に参加して行こうと前向きな姿勢である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用契約書・重要事項説明書に明記をし本人と家族には、理念について入居時に説明をしている。しかし、地域の中でその人らしく暮らし続けていく為の地域密着型サービスとしての理念とは言い難い。		今後、地域の中でその人らしく暮らし続けられる様、改めてホームが目指すサービスを全職員で振り返り、家庭的で地域に密着したグループホームの役割が果たせる様な理念を新たに付け加えられてみると更に良いのではないかと。地域の方々の理解が得られ、より一層交流が深まる事を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、常に入居者を主体とし尊重した支援が提供できる様に毎月のケア会議の際、理念について全職員で話し合いの場を設けている。日々、介護をしながら意識づけを図り、理念を共有出来る様、実践に向けて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでの行事を企画して、入居者の方が地域の方と触れ合う機会を作っている。夏祭り・敬老会等、四季を感じながら入居者の方が楽しめる様に地域の方や地元の子供達に協力を呼びかけ、積極的な取り組みが行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、一人ひとりが自己評価全項目について考え書き記し、総合的結果を管理者がまとめられた。外部評価の意義を理解されており、日頃のケアの振り返りと今の課題等をもう一度見つめ直そうと前向きに考え、今回の評価を活かせる様、ホーム全体で取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの役割と理解を求め、ホームの入居者の状況や年間活動計画等を伝え、運営推進会議を通して様々な意見や話し合いを行い、ホームの質の向上を目指している。今後、地域との関わりがより一層増える事を願い、運営推進会議が活かされる様、取り組まれている。		

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣の社会福祉協議会から入居についての相談等もあり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の毎月の支払いを現金払いの形を取り、その際必ず日頃の様子について写真等見て頂き、状況報告や介護計画等含め、細かな報告をされている。金銭管理については、金銭出納帳に家族の確認(記名)をして貰い確実な報告が行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対しての苦情・相談について、重要事項説明書に申立て先の窓口をホーム又は、第三者の行政機関窓口を設置して契約時に本人・家族に説明をしている。しかし、直接言い難い場合等を考えた意見箱の設置がない。		これからの更なるサービスの質の向上等を考えた時、入居者・家族の様々な意見はとても重要なものと考えられる。運営推進会議メンバーや全職員等のあらゆる角度からの視点を考慮して、いつ・誰でも意見・相談のし易いホームである事を望み、運営に反映されて行く事を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者に影響が出ない様に法人内の職員の異動は出来るだけ無い様にと考えられている。今年度中に、やむを得ず管理者が交代されるが(異動)、これまでの馴染みの職員が引き継ぐ事で、入居者へのダメージを防ぐ為の配慮が窺える。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者始め職員は、グループホームケア研究会や県社会福祉協議会主催の研修に積極的に参加されている。しかし、参加した職員からの報告会の実施が徹底していない。		報告書の提出だけに止まらず、研修でどのような事を学び、それをこれからのケアにどう活かして行きたいのか、報告会を通して全職員に伝え、共有出来る事を期待したい。又、ホーム独自の勉強会の機会を取り入れる等して、各職員これまでの経験・資格・又は違った角度からの視点で互いに活発な意見交換をし、今後のケアサービスの質の向上に繋がる事が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループホームの管理者の会議が月1回実施されており、日頃からも必要な時はすぐに連絡・相談出来る関係である。職員もグループホームケア研究会の研修などを通じ、職員通しの交流を持つ事でサービスの質の向上をさせて行く取り組みをされている。		

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望があれば施設に見学に来て頂くようになっている。場合によっては、施設に体験入所して貰う事も出来、本人が出来ただけ安心して利用出来る様に、家族と相談しながら工夫されている。入所して馴染むのに時間がかかっても、個々に合わせ、落ち着く迄ドライブをしたりと様々な取り組みをされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の得意なもの、趣味などを引き出す努力をして、お手玉作り・広告を使用した小物・ちぎり絵・詩吟などをして、入居者が職員と共に楽しみながら生活出来る様取り組まれている。介護をされるだけの立場におかず、入居者から学んだり出来る様場面作りの工夫がされている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者が自宅の墓参りに行きたいと希望があれば、職員は同行し柔軟に対応出来る様にしている。一人ひとりの言葉・表情を察知し、入居者が思っている事に対し話しを聞く等、個々の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のケア会議、更にサービス担当者会議などを通して全職員でケアに対する話し合いの場を設けている。必要があれば、ケア会議は2～3回行われる事もあり、家族にも介護計画をしっかりと見て貰い、それぞれの意見を取り入れながらの介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期目標の見直しを3ヶ月毎に行っている。しかし、3ヶ月経たなくとも入院等で体調変化があった場合、今後の計画目標に繋げる為の見直しがされていない。又、長期目標に対しての見直しも行われていない。</p>		<p>入院等で、体調の状況変化があれば職員は医療機関や家族からの情報をその都度細かく記録し、短期目標の見直しの期間が終了する前であっても、本人の要望を考慮した上で目標の見直しが柔軟に行われる事が望まれる。長期目標については、現状に合っているのか、目標に沿った実践的な介護記録に繋げて行く為に6ヶ月程度に1度長期目標についての見直しが行われていくことを期待したい。</p>

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が入院される場合、家族と一緒に必要なものの準備等行っている。又、法人内の訪問看護ステーションから週1回看護師の訪問があり、一人ひとりの血圧チェック等の他に細かなアドバイスを「指導記録」と書き記し、職員に周知出来る様な取り組みが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営主体が医療法人の為、入所の契約時、本人・家族納得のもと母体の医療機関から週1回の往診がある。夜間帯等、緊急時に備え、他の医療機関とも連携体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、入居時に説明をし、主治医指導のもと、家族と十分に話し合いをしながら方針を共有出来る様にしている。又、入院中にも居室はそのままにして待っており、本人・家族の要望に柔軟に対応出来る様に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、入社時に書面を通し説明をしている。入居者のプライバシーの確保や身体拘束に関しては、介護時などの言葉による拘束に繋がる場合が無い様、十分配慮し職員は日頃の業務の際、入居者に対しての言葉掛けについて、気づいた時点でお互いに注意し合う事に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴支援の際、職員と入居者が1対1の時間が出来るので、入居者の想い等をゆっくり聞く様にされている。入居者一人ひとりの気持ちを職員は理解した上で、日々生活の中で、個々のペースに合わせ希望に沿える様に、取り組まれている。		

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの近所等から野菜を買った時には、これでどんなメニューが作れるのか、食べたいか入居者に問いかけ、準備や後片付けを一緒にしたりと工夫されている。しかし、入居者の食事中、職員は見守りを交代ですのみで、一緒に食事を取られていない。		家庭的な雰囲気を入居者と一緒に同じテーブルを囲み、旬の野菜など味付けや色どりを一緒に味わい、食事を共に過ごす時間を徐々に作られて見ると更に良いのではないかと。又、今後、入居者の食事に対する好みの変化があった時には、定期的な嗜好調査を行うなど新たな今後のケア向上の実践に繋がる事を期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は週3日～4日程度であるが、入居者の意思を尊重しながら体調面など考慮した上で、入りたい時には毎日入浴出来る体制である。拒否があっても、入浴した方が良く判断した場合は、本人に納得して入浴出来る様に色々工夫して無理のない入浴が出来る様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	四季を感じながら、花見・ドライブ・夏祭り・饅頭作り・敬老会等、一年を通しての楽しみごとや気晴らしの時間を大切にしている。これから迎える初めての正月には、入居者と一緒に「書初め」を行う計画がたてられている。又、ちぎり絵の作品を入居者で作る新たな目標もあり、昔からの得意な物を活かしながら、張り合いのある生活が送れる様前向きに取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に合わせ無理の無い程度での、外出支援が行われている。特にドライブは喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者のその日の状況を細かく察知する事で、日中は鍵をかける事の無いケアの実践に取り組まれている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、火災を想定した避難訓練が行われている。緊急時の応急処置について消防署と連携して勉強会を行う予定があり、万が一に備えた避難方法や応急処置について職員一丸となって取り組まれている。		

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の個々に応じ、一日に必要な水分の摂取量を把握している。献立に関しては、同じ法人の栄養士に点検して貰い食べる量や栄養バランスについて確認して貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植木やベンチを置いて、畑には野菜を作っている。食堂の横には畳の部分もあるので、そこに座って話しをしたり食事をとる事もできる。台所等も生活感があり、廊下にはソファを置き、居心地よく過ごせる様な工夫が窺える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者によって違いはあるが、馴染みの時計・写真など持ち込まれており、家族が訪問の際居心地よく過ごす事が出来る様、椅子やテレビの持ち込みもある。		